

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和元年度 第2回社会教育委員会議小委員会		
事務局 (担当課)	生涯学習部生涯学習課 電話042-769-8286(直通)		
開催日時	令和元年7月9日(火)午前10時~正午		
開催場所	相模原市役所 会議室棟2階 第3会議室		
出席者	委員	7人(別紙のとおり)	
	その他	0人	
	事務局	6人(生涯学習課長他5人)	
公開の可否	可	不可	一部不可
		傍聴者数	2人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 あいさつ 2 副委員長の指名について 3 議題 (1) 研究調査「今後の地域コミュニティづくりにおける社会教育の役割」について ア 報告書案について イ その他 3 その他		

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( は委員の発言)

### 1 あいさつ

新たに委嘱された井上委員(5月14日付)及び藤嶋委員のあいさつの後、石川委員長があいさつを行った。

### 2 副委員長の指名について

石川委員長の指名により、藤嶋委員が副委員長となった。

### 3 議 題

#### (1) 研究調査「今後の地域コミュニティづくりにおける社会教育の役割」について

##### ア 報告書案について

事務局から説明を行い、その後協議に入った。

主な意見等は次のとおり。

3章は、4章での提案を行っていくうえで、実績と課題を記載する箇所、特に課題の掘り起こしが重要であり、その中で、「家庭教育」、「児童・生徒の学習支援・居場所づくり支援」、「若い人たちの参画」、「担い手としての高齢者」といった視点が重要と考えている。

課題に対して結論だけ書くのではなく、事例を入れていく必要があると考えている。

夫婦共働きの家庭の増加に伴い、学童を利用する児童も増えている。地域によっては、校庭を使って増設している状況もあり、しばらくはその傾向が続くと考える。また、学校においては安全・安心な遊び場の確保も課題と捉えている。

学校への出席に関わらず、子どもたちの発達が保障される仕組みをどのように市内でつくるのか、学校とは違った環境で過ごせることも重要と考えており、その場所として無料学習塾や子ども食堂が行われている公民館やこどもセンターは適しているのではないかと。

本市の公民館は、地域の拠点という特徴があるので、生涯学習の場として、若者たちの参加促進などに使えるような提言ができればよい。

公民館だけでは、キャパシティの問題もあるので、図書館や博物館などの公共施設、さらには空き家の活用なども検討したらよいのではないかと。

福祉関係のレポートでは、時間的・経済的に余裕のある高齢者の方は、自分のこれまでの取組を伝えていきたいという傾向があることから、地域活動の担い手として、呼び込むことが必要ではないかという提言がされている。若い世代の参加ばかりではなく、高齢先進国だからこそ、いい事例になるのではないかと。

青少年に活躍してもらうためには、親を巻き込むこと、高齢者と若者の中間であるつなぎ役としての親世代に触れておく必要がある。自治会に入らない、昼間は地域の会議に出られないような方とコミュニケーションを取ることで、事業にも反映されていくのだと思う。

大きな時代の流れとして、連携・協働、共生、情報と書いたが、経済的格差が障壁とならないようにするためにどうするかということを書いていく。連携・協働という視点から青少年の

地域活動促進や人生100年時代といったところにつながっていく。

- 公民館では、地域の人たちのニーズに合う趣味的な事業が多く、本来の地域的な課題への学びでは、集まりにくい現状がある。

福祉との融合は重要で、公民館は生涯学習の場であるという意識が強く、みんなが集える場としてあり方を考えていかないと難しくなる。

公民館やこどもセンターが多くあるのは相模原市の特徴だが、その活動も変化しており、趣味的な講座に多く人が集まるが、考え方が根付いている公民館では学習に重きを置いているところもある。

こどもセンターの子育て広場に来る専業主婦の方には、自己肯定感が低い方もいる。そうした方に講師になってもらって、別のお母さんに教えることを始めると生き生きしてきた。人に教える喜びを体験していると、リタイアした後に地域活動に参加する人が増えると思う。

自己実現の前に、育児などで誰かを育てるという成長のプロセスがあって、長期的にみると後々につながっていくということが社会教育としてのコミュニティづくりと考える。

場への引き出し役は重要である。空間さえあれば良いわけではなくて、スペースがブレイスになっていくためにはどうするか。受講者から講師になれることを提案する人がいないと、引っ込めてしまう。誰かが引き出してあげる仕組みがないとコミュニティの再生は難しい。話しやすい状況でロビーワーカーのような引き出し役がいることによって、地域ごとで特色が生まれていくと思う。

以前、県でリーダー研修というのがあったが、公民館事業などで行う必要があるのではないか。

生涯を通じて学習している人の方が、幸福で健康であるとされていることから、学習権という考え方を加えていくのはよいと思う。

社会教育が直接的に地域コミュニティを活性化させるのではなく、人とつながった結果、活性化させるので、学習と確固たる信念が貫かれてるべきだと思う。

イ その他

特になし

### 3 その他

古矢委員より、今後の報告書の取りまとめに向け、渡邊元委員をオブザーバーとして小委員会への出席を求めることが提案され、了承された。

事務局より、次回小委員会は8月7日(水)午前10時から開催する旨の説明を行った。

石川委員長のあいさつにより、会議を終了した。

以上

令和元年度 第2回社会教育委員会議小委員会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠
1	井上 一恵	相模原市立小学校長会		出席
2	藤嶋 直司	相模原市公民館連絡協議会	副委員長	出席
3	大橋 千景	虹のおはなし会		出席
4	石川 利江	学識経験者（桜美林大学教授）	委員長	出席
5	古矢 鉄矢	学識経験者（学校法人北里研究所参与）		出席
6	青木 智野	公募		出席
7	藤井 智	特定非営利活動法人文化学習協同ネットワーク 常務理事		出席

出席者7名 欠席者0名